

氏 名	所 属
清水 義彦	群馬大学 大学院 理工学府 教授

■ご意見の内容(1/2)

1. 防災・減災について

○利根川水系ですら計画レベルには達していない弱さを持っている部分もある。関東ブロックでそのような脆弱性を持っていることを記載するのは効果的だ。

○社会資本整備重点計画が今後5年間の計画だとタイムラインや広域避難計画などソフト施策が中心となるだろう。ただ、社会資本整備重点計画がソフト対策だけの記載では問題がある。地方自治体との連携や国の強い統制力の発揮など、この5年間で仕組みを作っていくことが必要。鬼怒川の災害を契機に、堤防の整備など計画の遅れを取り戻す5年間でなければならない。

○基礎的防災力では、計画レベルに達していない堤防の強化と住民がリスクを認識して避難行動に繋げていくといった、ハードとソフトの両面での記載が必要だろう。

○直轄ではないが、越谷レイクタウンの大規模調整地などは、平常時と一体的な防災機能の強化としてよい事例だと思う。また、佐原や富士川など道の駅と河川防災ステーションとの一体的な整備をするものも良い。防災機能だけでなく、いろいろな付加価値を持ったものの整備を進めて欲しい。

2. 戦略的インフラマネジメントの構築について

○オリンピックの前にインフラ整備をしっかりとっておかないといけない。関東ブロックでこの5年間で長寿命化計画を確実に進めていく必要がある。

「関東ブロックにおける社会資本整備重点計画」に対する御意見

公表用様式

氏 名	所 属
清水 義彦	群馬大学 大学院 理工学府 教授

■ご意見の内容(2／2)

3. 東京圏の一極集中について

○東京圏の一極集中は問題だけでなく、メリットにすることも考えていくべきだろう。いかに関東ブロックの中で、周辺の地方自治体の活力に変えていくかの視点が必要。地方の経済力に結ぶつく対流型首都圏にしていく。

4. スーパー・メガリュージョンについて

○首都圏広域計画は比較的大きなエリアを意識しているが、5年計画の社会資本整備重点計画ではもう少し狭いエリアとしてメガリュージョンの記載をしてもいいかもしれない。リニアはこの5年でできない。例えリニアができなくても計画が進むことを意識させることが必要。